

## 調査概要

### ■調査目的

パーソントリップ調査（以下、PT調査）とは、「人が、どんな目的で、どこからどこへ、どんな交通手段を利用して、何時ごろに移動したか」という日常の動きを調査するものです。

昭和45年以降、10年ごとに実施しており、平成22年度は5回目の調査になります。今後の交通計画などを検討するための基礎的な資料とするものです。

### ■調査時期

平成22年10月初旬～11月下旬（5回に分けて調査票を送付）

### ■調査方法

堺市から無作為抽出した約77,000世帯に対し、郵送調査（郵送またはWEB（インターネット）による回収）を実施。また、事前に無作為抽出した対象以外の方にもWEBによる調査を実施。

### ■調査内容

#### ○世帯調査票

世帯の人数、性別・年齢、職業、就業形態、通勤・通学先等、運転免許の有無、外出時の困難性

#### ○個人調査票

調査対象日の活動場所と活動内容、移動された場合の移動手段、所要時間など

#### ○交通に対する意識調査（協議会版、堺市版の2種類）

公共交通に関するアンケート

### ■今回の調査の特徴

- ・ 道路交通センサスとの統合（オーナーインタビュー調査のうち、自家用乗用車の調査をPT調査と統合）
- ・ MMsの実施（交通行動に対する意識変容を促す手段として、調査票にモビリティマネジメントの項目を追加）
- ・ ODデータ取得ゾーンの細分化（市区町村内のエリアを任意に分割して集計可能なように郵便番号ゾーン対応）

## 回収状況

調査票	郵送対象者					回収率	郵送対象外 WEB (公開型)	
	発送数 (世帯)	目標返送数 (世帯) ※	実返送数					
			合計	郵送	WEB			
実態調査 (世帯調査票、個人調査票)	76,790	14,278	14,654	13,309	1,345	19.1%	157	
意識調査	協議会版 (3枚/世帯封入)	4,100	800	2,001	1,428	573	-	105
	堺市版 (1枚/世帯封入)	72,690	-	11,810	10,901	909	16.2%	52

- ※ **【実態調査】** ・実態調査の目標返送数は、有効サンプル数3.5%を確保する設定。入力ゾーン別(区を4~5分割程度)の発生集中交通量を目的別(通勤、通学、自由、業務)の手段分担別(公共交通、自動車、二輪、徒歩)に信頼度95%、相対誤差20%の精度を確保。
- 【意識調査】** ・意識調査(協議会版)の目標返送数800は、堺市を2エリア(都心地区、都心以外の市域)分で分析するために必要なサンプル数。信頼度95%で5%の誤差を許容するレベル。なお、堺市を2区以上に分割する分析にも利用できるが、誤差が拡大する。
- ・意識調査(堺市版)は、回収実績数から、信頼度95%で5%の誤差を許容するレベルであれば、各区をさらに4分割したレベルの分析が可能。

## 今後の予定

- 平成22年度 意識調査(堺市独自)の集計結果のとりまとめ
- 平成23年度
- ・実態調査データのマスターファイルの作成(拡大・補正)
  - ・基礎集計(目的別の発生集中量、鉄道端末手段、代表交通手段別の地域間流動など)
  - ・現況分析(人の移動の実態と公共交通サービスとの関係分析など)
  - ・将来予測手法の検討
- 平成24年度
- ・将来予測モデルの構築
  - ・広域(近畿圏)・地域(府県)・個別テーマ(環境に配慮した交通施策など)の交通施策の検討